

当クリニックにおける永久歯先天欠如を有する小児患者の口腔管理

○花崎美華, 前野孝枝, 徳永まどか,
田村香里, 渋谷早希, 石谷徳人
(医) イシタニ小児・矯正歯科クリニック)

【目的】

永久歯先天欠如は小児の口腔管理を行う上でしばしば遭遇し、長期管理が必要となる。しかし患者へ具体的な介入が必要となるタイミングと最終的なゴールについて初期の段階で提示できなければ、患者のモチベーションを維持し継続的に来院してもらうことは難しい。今回、永久歯先天欠如について、当クリニックにおける管理計画の考え方、および実際の症例について紹介したい。

【当クリニックの口腔管理システム】

当クリニックでは全ての小児患者に対し、エックス線検査による永久歯先天欠如のスクリーニングを行っている。この結果永久歯先天欠如を有すると判断された小児患者に対しては、独自に考案したマイ・マネージメントマップという口腔管理の見取り図を用いることで管理計画を可視化し、患者・保護者自身の意識を向上させ将来の臨床対応を見据えた口腔管理を行っている。

【永久歯先天欠如患者の実態調査】

2018年6月現在、7歳以上の口腔管理中の患者6088名(男性3056名、女性3032名)の内、永久歯先天欠如を有する患者は395名(男性163名、女性232名)であった。永久歯先天欠如である者の頻度は6.5%であり、男性41.3%、女性58.7%であった。この内、咬合治療による空隙閉鎖を行っている者は38名(9.6%)、欠損補綴を行った者は4名(1.0%)であった。

【まとめ】

小児期の永久歯先天欠如への対応には様々な選択肢があるが、どのような治療法を選択したとしても、長期安定性の鍵は齲蝕・歯周病予防と健康教育による口腔健康観の確立であると考えられる。小児歯科専門医院を中心とした患者支援により、多くの小児患者が適切な治療法を選択できるようになることを期待している。

乳歯列期パノラマX線画像解析による永久歯列期叢生の定量予測の検討

○石倉万里衣, 阿多美幸, 奥 猛志
(医療法人 おく小児矯正歯科)

【緒言】

近年、乳歯列期から叢生を伴う小児が増加していると言われている。混合歯列期では、小野の回帰方程式や Moyers の推定による永久歯列期叢生の定量評価法を用い、抜歯・非抜歯等を含めた治療方針が決められる。しかし、乳歯列期では永久歯列期叢生の定量評価法は確立していない。今回、乳歯列期パノラマX線写真ならびに乳歯列期模型から永久歯列期の叢生を定量的に予測する方法を考案したので報告する。

【対象ならびに方法】

当院で乳歯列期にパノラマX線写真、歯列模型の採取を行った患者の中で、永久歯列完成期のパノラマX線写真、歯列模型を有する12名を対象とした。計測ならびに分析は Haruki らの方法に準じた。患者(保護者)には研究の同意を得て行った。

【結果ならびに考察】

1. パノラマX線拡大率(ⅡA期パノラマX線乳歯歯冠幅径/ⅡA期歯列模型乳歯歯冠幅径): 上顎 1.00、下顎 1.07
2. 永久歯歯冠幅径予測値(ⅡA期パノラマX線後継永久歯歯冠幅径/パノラマX線拡大率)と実測値との相関(Spearmanの相関係数): 上顎 0.7、下顎 0.8

今回、Haruki らの方法を応用しパノラマX線拡大率を求め、ⅡC期パノラマX線写真の後継永久歯歯冠幅径から永久歯歯冠幅径を予測したところ、強い正の相関が認められた。本方法により、ⅡC期から永久歯列期叢生を定量的に予測できる可能性が示唆された。